

防災、支援態勢学ぶ

新潟でセミナー 大学教授ら講演

防災の専門知識や行政の災害支援態勢を学ぶ「防災技術セミナー」が29日、新潟市中央区の国土交通省北陸地方整備局で開かれた。地震、津波や地滑りなどへの備えや発生後の対応について、



大学教授ら7人が講演した防災技術セミナー＝29日、新潟市中央区

新大災害・復興科学研究所の丸井英明所長は、昨年上越市で地滑りが発生するなど、本県で被害が相次ぐ地滑りの対策についてクローアチアの監視技術を紹介。「国際協力が必要」とし、研究成果を海外で共有しながら対策を進める重要性を強調した。

新潟市域での津波浸水の危険性に関する研究をしている同研究所の安田浩保准教授は「多くの研究成果を社会にどう伝えていくかを研究者は考えるべきだ」とし、社会の理解を得ながら防災対策を進めていく必要性を訴えた。

新潟日報社報道部の高橋渉記者は、震災を風化させないため、継続的な努力の必要性を指摘した。

長岡技科大や地方整備局 防災ノウハウを確認

新潟でセミナー

防災力向上を目指して行政関係者などが取り組む「防災技術」を学ぶ会「防災技術セミナー2013 in 新潟」が29日、新潟市内で開かれた。北陸地方整備局が災害発生時の支援体制などを紹介。新潟県防災局など行政だけでなく、県内大学の関係者も出席し、官学で災害対策のノウハウを確認しあった。

同セミナーは新潟大学災害・復興科学研究所と長岡技術科学大学、北陸地方整備局が共同で主催。県や市町村の防災担当者のほか、学生など合計160人が参加した。

県防災局は中越沖地震発生時を振り返りながら災害支援策への取り組みを紹介。新大災害・復興科学研究所の有識者は新潟市内の津波浸水の危険性について説明した。

同研究所と北陸地方整備局は災害に関する連携・協力について協定を締結、セミナー開催で防災力の向上につなげる。

産・学・官が情報交換

防災技術セミナー 2013 in 新潟

北陸整備局ら

北陸地方整備局と新潟大学・復興科学研究所、長岡技術科学大学は29日、新潟美咲会館1号館で「防災技術セミナー2013 in 新潟」を開催し、県や市町村の防災担当者、北陸防災連絡会議

メンバー、大学生ら約160人が出席した。写真。

セミナーではまず、長岡技術科学大学の丸山久一環境・建設係長が「昨年から産学官が情報を交換してトータルで防災力



を高めることが、地域の防災力を高めることになる」とあいさつ。スキルアップセミナーとして、『官』の立場から北陸整備局の渡部長務総括防災調整官

が「北陸地方整備局の災害支援体制」、県防災局の細貝和司防災企画課長が「災害対応における産学官連携の取り組みについて」と題し、それぞれの取り組みを説明。『学』の立場からは新潟大学災害・復興科学研究所の丸井英明教授ら、長岡技術科学大学の田中泰司助教が研究成果や災害対応事例などを紹介し、『民』の立場からは新潟日報の高橋渉報道部長が防災教育の観点からみた震災遺構や復興基金などについて意見を述べた。

また、会場駐車場はセミナーに先立ち、災害対策車両等や防災用品の展示・説明も行われた。